

# スキルアップのための情報収集・情報発信

～若手大学図書館職員の実践記録～

山口大学 岡崎聡志

## 1. はじめに

私は、2013年4月に山口大学で図書系職員として新規採用され、2016年度で4年目となる大学図書館職員である。

本稿では、新規採用からの三年間を振り返り、若手大学図書館職員として特にスキルアップにつながったと感じた情報収集と情報発信を中心に取り上げる。読者のなかには、私より経験豊富な方が多いと思われるので恐縮だが、「こんな考え方、やり方もある」という参考にしていただければ幸いである。

## 2. なぜ情報収集・情報発信なのか？

例えば、企画立案をするときには、その根拠となる情報が必要であるし、それを企画書にまとめるときには情報発信の能力が活きてくる。

変化の激しい時代において、その時々々に直面するタスクや問題解決に取り組むには、最新情報を常に把握しておくこととともに、その時々々の自分に必要な知識を習得し続けること、学び続けることが不可欠である。

## 3. 情報収集

私が情報収集をする上で心がけているのは、実務へのアウトプットを意識して情報収集していることである。実務にどう関わるか、どう活かせるかという視点を忘れないようにし、情報収集のための情報収集で終わらないように気をつけている。

### (1) Web 情報

高等教育・図書館系の実務に関連する Web 情報を日々確認するようにしている。メインは『カレントアウェアネス・ポータル』<sup>①</sup>と『STI Updates (学術情報流通ニュース)』<sup>②</sup>の2つである。その他、文部科学省、国立国会図書館、気になっている大学図書館、高等教育や図書館の関連団体などの Web サイトを適宜確認し、最新動向をチェックしている。

Web サイトの更新情報を確認するには、RSS リーダー<sup>③</sup>とはてなアンテナ<sup>④</sup>を使用すると便利である。また、興味・関心のある Web 情報を探す際には、はてなブックマーク<sup>⑤</sup>と Google アラート<sup>⑥</sup>を利用している<sup>⑦</sup>。これらのツールを使えば、一つひとつの Web サイトを訪問しなくてすむ。

ちなみに、はてなアンテナ「kitone のアンテナ」<sup>⑧</sup>には、日本全国の大学や図書館などの Web サイトが登録されており、更新情報が一覧できる。

以上のように、Web 情報の収集についてまとめてみたが、恥ずかしながら、私自身いつもスムーズに処理できているとはいいがたい。RSS リーダーの更新情報が溜まりがちになることもある。

しかし、その点についてはあまり気にしないようにしている。なぜなら、Web 上の一次情報を見落としていても、重要なものであれば、多少遅れてしまうものの、以下で紹介する他の情報源でもカバーできると考えているからである。

この段階では、とりあえず情報を集めて、ピンときたものがあればいくらの気持ちである。新聞やテレビニュースを見ている感覚である。情報過多によりパンクして継続しなくなるよりは、取りこぼしながらも継続したほうがいい。

なお、より詳細な Web 情報の収集方法については、「北海道の図書館員勉強会でおはなししてきました」<sup>(9)</sup>と「カレントアウェアネス・ポータルのいまを“刻む”：情報収集活動と未来へのアイデア」<sup>(10)</sup>が参考になる。

## (2) 大学職員の個人ブログ

大学職員が運営している個人ブログも重要な情報源である。同時に後半の情報発信のお手本としても勉強になることが多い。

例えば、大学図書館職員によるブログでは、システム関連の情報に詳しい『ささくれ』<sup>(11)</sup>や自己啓発やサービス関連の情報に詳しい『空手家図書館員の奮戦記』<sup>(12)</sup>などがある。

図書館以外の部署の大学職員によるブログでは、『大学職員の書き散らかし BLOG』<sup>(13)</sup>や『松宮慎治の憂鬱』<sup>(14)</sup>などがあり、様々な考え方、ニュースや事例について触れることができ参考になる。

この他にも様々なブログで、独自の研究・分析、研修やイベントの報告が公開されている。一口に大学職員のブログといっても、やはりそれぞれ特徴があるのでおもしろい。

大学職員のブログを読むことは、問題意識や疑問の持ち方、情報発信のお手本としてスキルアップにつながるので、お気に入りのブログを見つけるといいと思う。

## (3) Twitter・Facebook

Twitter は情報の流れが早いので、日々のツイートは追い切れていない。しかし、最近のイベントや講演会等では、共通のハッシュタグがつけられているものが増えており、実況情報が補足しやすくなってきている。また、Togetter<sup>(15)</sup>を使用し、ある程度まとまった情報として得られる場合もある。

Facebook では、研修やイベントなどで知り合った他大学の職員や教員と「友達」なったり、「グループ」に入会したりすることによって、インフォーマルな情報を得ることができる。他大学の事例の裏側を知ることができ、興味深い。Facebook 経由でイベントの招待を受けることも増えてきている。

## (4) 雑誌

図書館関連の専門雑誌では、動向紹介や特定のトピックについての論考を集めたものを中心に確認している。具体的には、主に『カレントアウェアネス』(国立国会図書館)、『情報管理』(科学技術振興機構)、『情報の科学と技術』(情報科学技術協会)、『大学図書館研究』(大学図書館研究編集委員会)、『ライブラリー・リソース・ガイド』(アカデミック・リソース・ガイド)をブラウジングまたは目次を確認して、興味深い記事があれば、適宜読むようにしている。

その他の図書館関連の専門雑誌については、「情報サービスにおける各種情報源の最新動向を学ぶために」<sup>(16)</sup>に挙げられているものに注意している。「図書館関係雑誌目次 RSS 集 (国内)」<sup>(17)</sup>のなかから、興味のある雑誌を探し RSS を登録すると、最新刊号の目次情報が得られて便利である。

## (5) 本

まとまった情報を得たり、新たな分野を基礎から学んだりするには本がいい。

私は、就寝前の約1時間を読書の時間にあてることを習慣化しており、冊数はとくに目標設定していないが、大学職員になってからは年間50～70冊程度読了している。乱読を基本としているので、直接実務に関連する本ばかりではない。

しかしながら、図書館のサービス部門にいたときには情報サービスや図書館サービス関係の本、契約部門にいる現在は会計や法令関係の本など、やはり実務に関連する本を読む量を増やしている。新たな分野を基礎から学ぶときに意識しているのは、自分が無理なく理解できる入門書を複数冊読み、まず基本をおさえ相場観を養うことである。

私は、入手困難な本を除き、多少無理をしても身銭を切って購入し、所有するようにしている。所有することで、自由に書き込んだり付箋を貼ったりできるし、読みたいときにいつでも何度でも取り出せる。本棚にある背表紙を眺めるだけで知的な好奇心がそそられることも多い。積ん読が増えると、読まなければいけないという気にさせられる。長期的な視点で自分専用の図書館を作るという意識を持ち、本を購入・所有していく、つまり、蔵書を構築していくといいのではないかと思う。

ちなみに、私はブックログ<sup>(18)</sup>を使用し、読書関連の情報を記録・管理・公開している。

## (6) 研修資料・その他

各機関・団体などが実施している研修の資料もスキルアップに役立つ。

国立情報学研究所の Web サイト<sup>(19)</sup>では

「大学図書館職員短期研修」や「学術情報リテラシー教育担当者研修」、筑波大学附属図書館の Web サイト<sup>(20)</sup>では「大学図書館職員長期研修」の資料が公開されており、自主学習に使用できる。

この他にも、最近では様々な研修やイベントの資料は積極的に公開されるようになっていくことに加え、講師自身が SlideShare<sup>(21)</sup>などでプレゼンテーション資料を公開する動きもあるので、ぜひ気になる研修やイベントがあれば、資料が公開されていないか検索するといい。

本稿では触れないが、詳しい方に連絡を取り直接教えてもらうというのも立派な情報収集であるし、学会・協会・団体に入会するという方法<sup>(22)</sup>もある。

## 4. 情報発信

情報収集と対になって重要なのは、情報発信である。もちろん実務に直接還元するなどの情報発信以外のアウトプットも考えられるが、今回は情報発信のみについて述べる。

私が情報発信をする上で心がけているのは、機会があれば積極的に活かしていくこと<sup>(23)</sup>、機会がなければ自主的に発信することである。

どんなに素晴らしいことをしても、情報発信しないと広がりを持たないし、自分にとって些細なことでも情報発信をすることで、それを必要とする人に届く可能性がある。仮にその情報を必要とする人がいなくても、記録として残しておけば振り返ることができるので、将来の自分の役に立つ。

また、自ら情報発信をすることにより、産みの苦しみを知ることができるので、情報を読み解く際にも生きてくる。

### (1) 専門雑誌などに投稿・寄稿する

私は、「書くことは考えること」、「考えることは書くこと」と捉えている。考えたことを書くというよりも、書くことによって考えをはっきりさせていくというスタンスである。

今までに『カレントアウェアネス-E』（国立国会図書館）と『大学図書館研究』（大学図書館研究編集委員会）に投稿・寄稿する機会をいただいた<sup>(24)</sup><sup>(25)</sup>。いずれも原稿執筆のきっかけは、イベントで知り合ったご縁である。

『カレントアウェアネス-E』の記事を執筆したのは職員1年目だったので、正直かなり不安だった。しかし、一時の気の迷いであったかもしれないが、私を見込んで依頼をしてくださったこと、『カレントアウェアネス・ポータル』は「皆さんに成長の機会を提供できる」<sup>(26)</sup>という考え方に助けられ、執筆することができた<sup>(27)</sup>。

『大学図書館研究』のときには、共著の方に助けられながら、なんとか執筆することができた。

文章を書くには、その内容を考えなければならない。ものごとを考え、自分の考えを整理するには、文章を書くのが効果的であると実感することができた。なにより執筆後、自分の書いた文章が公開されるというのは、特に若手職員にとって大きな励みになる。

### (2) ブログを運営する

ブログを運営することで、自主的に情報発信することもできる。気軽に始めることができ、自分のペースで自由に更新できることがメリットである。

私は、職員1年目の2013年6月から『猫

に夢研究所』<sup>(28)</sup>というブログを始めた。とくに更新頻度は決めずに、無理なく続くペースで気ままに更新を続けている。内容は、読書記録と研修やイベントの参加記録が多い。かしまったものではなく、自分のノートを公開している気持ちである。

ブログに限った話ではないが、自分の意見が他人に反論されたとき間違っていると恥ずかしい、自分の考えが正しいかどうか自信がないという方もいると思う。

しかし、発信した内容が間違っていると気づけば訂正すればいいし、様々な意見があることによって、それがたたき台となり本質的な議論が進むものだと考えると気が楽になるのではないだろうか。

ブログを活用した大学職員のスキルアップについては、「ブログを活用したスタッフ・ディベロップメントの可能性」<sup>(29)</sup>が詳しい。

### (3) 登壇・発表する

講師やパネリストをすることも情報発信の1つである。

今までに山口県立山口図書館主催の平成26年度公立図書館職員等専門講習会で「これから始めるビブリオバトル」というお話をさせていただき、『第11回レファレンス協同データベース事業フォーラム』ではパネリストとして参加する機会をいただいた<sup>(30)</sup><sup>(31)</sup>。

登壇・発表する場合は、話す量・話す時間以上に、事前準備が大変で、かなりの情報整理が求められる。そのため、発表者は、聴衆以上に勉強することができる。

なによりも人前で話すことは度胸がつく。とくに若手職員にとって、先輩にあたる方々が多いなかで話すのは、とても緊張す

るが、その分、フィードバックも得られやすいのでいい経験になる。

#### (4) メーリングリスト・その他

参加しているメーリングリストに投稿するのも立派な情報発信である。ちなみに、Google グループ<sup>(32)</sup>を使えば、自分で簡単にメーリングリストを作成することもできる。私は、研修に参加したことをきっかけに、「学術情報リテラシー教育メーリングリスト」<sup>(33)</sup>を作成し、管理している<sup>(34)</sup>。

この他、自分が得た情報を必要としそうな同僚や興味を持っていそうな他大学の知人に伝えることも範囲は狭いものの、手軽な情報発信である。

#### 5. おわりに

情報収集と情報発信は表裏一体であると思う。情報収集をすることで情報発信のネタができるし、情報発信をすることで積極的に情報収集をするようになったり、まわりから関連情報を教えてもらえる。

実務に加えて、このサイクルを回してきたことが、きっとスキルアップにつながっているはずである。

---

※URLの参照日は、すべて2016年4月8日である。

- (1) 図書館界、図書館情報学に関する最新の情報をお知らせする、国立国会図書館のWebサイトである。 <http://current.ndl.go.jp/>
- (2) 科学技術振興機構の担当者が収集する各国の科学技術情報の整備、流通、活用に関する情報を、速報として簡潔にまとめているWebサイトである。 <https://jipsti.jst.go.jp/johokanri/>
- (3) RSSとはWebサイトの更新情報を通知する仕組みであり、RSSリーダーに登録することで確認作業を省力化することが

---

できる。なお、私は「feedly」というRSSリーダーを使用している。

- (4) RSSに対応していないWebサイトの更新情報を確認することができるWebサービスである。 <http://a.hatena.ne.jp/>
- (5) ブックマークを保存・管理・共有できるソーシャルブックマークサービスである。 <http://b.hatena.ne.jp/>
- (6) Googleが新たにクロールしたWebページのなかから、指定したキーワードに関連するものを通知するサービスである。 <https://www.google.co.jp/alerts>
- (7) はてなブックマークでは、主に「図書館」タグが付与された情報を確認している。Googleアラートでは、「図書館」というキーワードを登録している。
- (8) kitoneのアンテナ。 <http://a.hatena.ne.jp/kitone/>
- (9) kitone. “北海道の図書館員勉強会でお話してきました”。ささくれ。2015-09-06。 <http://cheb.hatenablog.com/entry/2015/09/06/175951>
- (10) 依田紀久，林豊，菊池信彦. カレントアウェアネス・ポータルのいまを“刻む”：情報収集活動と未来へのアイデア. カレントアウェアネス. 2013, no.315, p.5-9. <http://current.ndl.go.jp/ca1788>
- (11) kitone. ささくれ。 <http://cheb.hatenablog.com/>
- (12) 井上昌彦. 空手家図書館員の奮戦記. <http://karatekalibrarian.blogspot.jp/>
- (13) samidaretaro. 大学職員の書き散らかしBLOG. <http://kakichirashi.hatenadiary.jp/>
- (14) shinnji28. 松宮慎治の憂鬱. <http://shinnji28.hatenablog.com/>
- (15) Twitterで投稿されたツイートをまとめることができるWebサービスである。 <http://togetter.com/>
- (16) 大庭一郎. “情報サービスにおける各種情報源の最新動向を学ぶために”. 情報サービス論. 山崎久道編. 樹村房, p.201-202, (現代図書館情報学シリーズ, 5).
- (17) 国立国会図書館. “図書館関係雑誌目次RSS集 (国内)”. カレントアウェアネ

- 
- ス・ポータル. <http://current.ndl.go.jp/node/9811>
- (18) 仮想本棚を作成できる Web サービスである。 <http://booklog.jp/>
- (19) 国立情報学研究所. 教育研修事業. <https://www.nii.ac.jp/hrd/>
- (20) 筑波大学附属図書館. 大学図書館職員長期研修. <https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/pub/choken/>
- (21) プレゼンテーション資料を共有できる Web サービスである。 [http://www.slide share.net/](http://www.slideshare.net/)
- (22) high190. “大学職員の能力を高めるために、高等教育関連の学会に入会してみよう”. Clear Consideration (大学職員の教育分析). 2015-10-14. <http://d.hatena.ne.jp/high190/20121014/p1>
- (23) 本稿もメールで執筆のお話をいただいて、力不足とは感じながらもスキルアップの機会として引き受けさせていただいた。
- (24) 岡崎聡志. 学生主体の憩いの場：山口大学総合図書館「りぶカフェ」. カレントアウェアネス-E. 2014, no.254, <http://current.ndl.go.jp/e1533>
- (25) 岡崎聡志, 昌子喜信. 全国の学生協働をつなげる：大学図書館学生協働交流シンポジウムの取組み. 大学図書館研究. 2015, no.108, p.54-64.
- (26) 林豊. “CA ポータルはきつとみんなで作るもの！：若手の成長という観点から”. 図書館総合展. 2013-10-30. [http://current.ndl.go.jp/files/presentation/2013capforum\\_presentation2.pdf](http://current.ndl.go.jp/files/presentation/2013capforum_presentation2.pdf)
- (27) 猫に夢. “カレントアウェアネス-Eの執筆過程 (E1533)”. 猫に夢研究所. 2014-05-24. <http://nekoniyume.hatenablog.com/entry/20140524/1400919375>
- (28) 猫に夢. 猫に夢研究所. <http://nekoniyume.hatenablog.com/>
- (29) 長山琢磨. ブログを活用したスタッフ・ディベロップメントの可能性. 大学職員ジャーナル：大学創造別冊. 2014, no.17, p.48-51.
- (30) 国立国会図書館. “第11回レファレンス協同データベース事業フォーラム”. レファレンス協同データベース. [https://crd.ndl.go.jp/jp/library/forum\\_11.html](https://crd.ndl.go.jp/jp/library/forum_11.html)
- (31) 猫に夢. “レファ協ネイティブ世代の発言記録：第11回レファレンス協同データベース事業フォーラム #crdf2015”. 猫に夢研究所. 2015-03-01. <http://nekoniyume.hatenablog.com/entry/20150301/1425216790>
- (32) グループ内のメンバーとコミュニケーションを図ったり、ディスカッションを行ったりすることでできるサービスである。 <https://groups.google.com>
- (33) 猫に夢. “「学術情報リテラシー教育メーリングリスト」のご案内”. 猫に夢研究所. 2016-01-06. <http://nekoniyume.hatenablog.com/entry/2016/01/06/225852>
- (34) 猫に夢. “平成27年度学術情報リテラシー教育担当者研修に参加しました”. 猫に夢研究所. 2015-12-25. <http://nekoniyume.hatenablog.com/entry/2015/12/25/232255>